

令和3年度第3回兵庫県スポーツ推進審議会 議事録

- 1 期日・場所 令和4年3月7日(月) 13:00~14:45
県民会館 7F 「鶴」
〒650-0011 兵庫県神戸市中央区下山手通4丁目16-3
- 2 出席者 (委員13名) 山口委員 平野委員 倉委員 吉矢委員
鵜木委員 恒木委員 小林委員 三上委員
山根委員 角南委員 陳委員 榎並委員
石角委員
欠席：長ヶ原委員 尾山委員
(関係幹事4名) 中井幹事(代理) 北中幹事 榎幹事 田中幹事
(陪席3名) 藤原兵庫県体育協会事務局長
織邊スポーツ振興課参事
田村スポーツ振興課参事
(教育委員会) 西上教育長
(事務局) 岡本副課長 金田主幹
鵜野指導主事 東郷指導主事
橋口事務員
- 3 開会
- 4 あいさつ 西上教育長
- 5 委員・幹事紹介
- 6 署名委員の指名 署名委員は、平野委員、三上委員に決定
- 7 前回議事録の報告
令和3年度第2回兵庫県スポーツ推進審議会の審議事項(第2期兵庫県スポーツ推進計画答申)とその他(策定までの今後のスケジュールについて、基本理念にむけた方策等について)の議事録について事務局より説明し、承認を受けた。
- 8 報告事項
(1) 第2期兵庫県スポーツ推進計画について
事務局より第357回定例県議会において議決された第2期兵庫県スポーツ推進計画について説明を行った。
(2) 第2期兵庫県スポーツ推進計画 実施計画(素案)について
事務局より計画構成と指標について説明を行い、関連指標について委員から意見を求めた。

(3) 令和4年の事業概要について

- ① スポーツ振興課に関する事業概要について、スポーツ振興課長が報告した。
・神戸マラソンについて、スポーツ振興課参事が報告した。
- ② 体育保健課に関する事業概要について、体育保健課長が報告した。
- ③ WMG2021 推進課に関する事業概要について、WMG2021 推進課長が報告した。
- ④ ユニバーサル推進課に関する事業概要について、ユニバーサル推進課長（代理）が報告した。

9 審議事項

(1) 「令和4年度スポーツ振興団体交付補助金」について

令和4年度スポーツ振興団体に交付する補助金の内容について事務局より説明し、承認を受けた。

■ 委員の主な意見及び事務局の説明

審議事項

〈第2期兵庫県スポーツ推進計画 実施計画（素案）について〉

《子ども・ユーススポーツの推進の関連指標について》

【平野委員】

- 体力アップサポートの派遣事業の具体的な人数や派遣件数を指標にしてはどうか。

【倉委員】

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査には幼児期は含まれていない。幼児の運動能力調査というのがあるが、年齢や発達によって理解度が異なるため、正確な測定は難しい。また、子どもは月単位で発達していくので同年齢で括ることに無理があるのではないか。運動が好き、あるいは体力が上がったという指標は非常に難しい。

【山口会長】

- 総括指標の「運動・スポーツ」には児童期の運動遊びは「運動・スポーツ」に含まれていると理解されている。

【鶴木委員】

- 親子で行うスポーツプログラムを実施するクラブの増加や「子どもの冒険ひろば事業」のようなイベントの開催件数を指標とし、ファミリースポーツの機会の充実を図っていただきたい。

【山口会長】

- 総括指標が、「運動・スポーツが好きになった」という認知レベルの指標なので、活動している頻度があつたほうがよい。全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「1日に体育の授業以外で何分運動・スポーツしますか」という項目がよい。

《生涯スポーツの推進の関連指標について》

【恒木委員】

- 総合型クラブやスポーツクラブの数が減っていく現状があり、指標の設定は難しい。

【山口会長】

- 総合型クラブのアシスタントマネジャーやクラブマネジャーの指導者数を増やしていくことを指標にしていくのはどうか。

《競技スポーツの推進の関連指標について》

【鶴木委員】

- トップアスリートの活躍できる場の支援において、オリンピック、パラリンピアンなど

のトップアスリートが参加するイベントや交流会の件数が活躍する場の指標になる。

【山口会長】

- 神戸新聞社の提案で神戸スポーツ産業懇話会において、アスリートを雇用している企業を支援するなどの提案があった。兵庫県体協もアスリートのマッチングに関する事業をされている。

【藤原幹事】

- アスリートキャリアフォーラムという形で、中小企業と県内の就職を希望しているアスリートが出会う機会を2回開催している。先日の12月25日にも第2回を行った。企業とアスリートのニーズがマッチしない部分もあり、回数を重ねて成果を上げていきたい。現在、1件が成約するかしないかの状況であるが、これからも続けていきたい。

【陳委員】

- アスリートの雇用の形態について、正社員で採用してほしい学生もいれば、けがをしたときの社会保障があれば、アルバイトでいいという選手もいる。学生側のニーズを把握して、企業と話ができるような体制づくりを進めていくとよい。

国体の成績で、少年男子が10位代の成績であることを考えたら、成年がこの30何位に落ちるといのは課題があるのではないかと。本来であれば同じような成績も望めるはずが、いい選手が流出して、戻って来ていないという現状がある。

【石角委員】

- 柔道においては、少しずつ女性指導者が増えてきている。審判活動も今までだったら男性が圧倒的に多かったが、全国大会でも女性審判員が増えてきている。

【事務局】

- 県内で日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者の女性の割合は、県内の指導者のうち、女性の指導者が22.8%である。

【山口会長】

- 女性指導者の割合を増やす指標について、県内での日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者の女性の割合を30%に設定することは適切である。

《障害者スポーツの推進の関連指標について》

【三上委員】

- 競技スポーツの推進の課題と同様に、パラアスリートも同じだ。パラアスリートを雇用している企業は大変少ない。また、地域で障害者スポーツができる施設も少ない。ハード面が充実をしていないという現実がある。

丹波篠山ABCマラソンが中止となり、代替事業として3月6日に赤穂市海浜公園で開催されたユニバーサルマラソンは参加者も多く、障害者スポーツと提携している関西福祉大学の学生ボランティアがたくさん参加されており、今後の障害者スポーツの推進にあたっては、大学生や障がい者スポーツ指導員やボランティアの連携に期待したい。

《全体を通して》

【山根委員】

- ジュニアスポーツ教室等を開催し、まず子どもたちがスポーツに取り組む機会を設け、強化をしていながら競技スポーツの推進につなげていく継続的なものが必要だと思う。学校部活動においては、優秀な指導者の有無により、競技力の高さや意識に差が生まれ、生徒の将来が左右されてしまう。優秀な指導者がいると競技力が高まるが、昨今の働き方改革等の問題や部活動の地域移行の流れがある中で、部活動中心に強化を進めるというのは、不安があり、見通しが立たない。今後は、強化拠点や裾野を広げるジュニアスポーツ教室を開催していくことが、将来のスポーツの発展につながっていく。

【小林委員】

- スポーツ医・科学がしっかりサポートされると、優秀な選手も多く出てくる。フィギュアでは泉佐野市にリンクがあり、フィギュアの拠点になっている。関西が強くなってきており、坂本花織も毎週末に泉佐野で練習し、専門のトレーナーやスポーツドクターによる包括的なサポートが行われてきた。しかし、県でこれを造るとするのは難しいので、各競技団体がこの連携体制をしっかりとしていくことが重要である。中央団体と兵庫県がしっかりとパイプを持つことで兵庫県のスポーツ選手も競技力を高めればよい。箱物をそろえるよりは中身の充実を考えることが競技者の環境整備につながる。

《実施計画の構成・スポーツ参画のための関連データ一覧について》

【石角委員】

- アクティブチャイルドプログラムを関連情報に追加する。いろいろなスポーツで人口が減っているという中には、練習だけやって楽しくないから辞めてしまう子どもがいるので、アクティブチャイルドプログラムを活用し、スポーツの導入に取り入れるのがよいので、関連情報に入れていただきたい。

【鵜木委員】

- スポーツ振興課のホームページに情報を掲載するにあたっては、目的に応じて閲覧しやすいように、表示について、工夫してほしい。

＜令和4年度スポーツ振興団体交付補助金について＞

《鵜木委員》

- 「競技スポーツ振興事業」について、削減額が約2,200万円となっているが、未来のスーパーアスリート事業を削減したということなのか。また、ほかのものにも及ぶということなのか。

《事務局》

- 事業については、昨年度まで第2期兵庫県競技力向上事業と未来のスーパーアスリート支援事業と別々であった。事業を今年度については、1つにまとめた。財政の厳しい折、事業全体の見直しは行ったが、次のオリンピックに向けて、新たなジュニア層の強化を図っていく。

10 閉会

【署名委員】

平野直美

三上善子